

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら八千代台教室		
○保護者評価実施期間	2024年7月4日		2024年8月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2024年7月4日		2024年7月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2024年8月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が楽しく通える教室の雰囲気	①療育方針の徹底 ・「怒らない・叱らない・手/目/気」を朝礼等で繰り返し職員へ伝達 ②楽しいプログラムの企画・実践 ・ルーティンプログラム、集団プログラムの定期的な更新 ・子供の参加状況に応じた内容の組替、修正	①職員の療育技量の向上 ・外部研修積極導入、常時研修プログラムを職員へ提供 ・職員毎の役割分担の明確化、一人当たり負荷を低減 ・毎月全職員出社日を作り、月次職員会議を実施 ・児童毎の課題行動に対する対応方針を統一
2	保護者との密な情報交換	①連絡帳を通じたきめ細かな対応 ・教室の様子を写真とコメントでわかりやすく伝達 ・保護者コメントには漏れなく丁寧に対応 ②連絡しやすい多様なチャネルを用意 ・HUG、公式LINE、メール、電話、送迎時などで対応 ③職員間情報共有の仕組化 ・グループLINEで漏れなく共有	①連絡帳作成スキームを改良 ・メイン先生は担当児童を極力持たず全体チェック ・最終チェック時の修正内容を翌日朝礼でフィードバック ・発達課題の大きい児童の担当職員を極力固定化
3	子どもの適正に応じた適切な支援	①個別支援計画に基づく支援 ・個別支援計画をHUGへ格納 ・個別支援計画に沿った振り返りを日々実施 ②子供のやる気を引き出す取り組み ・トイトレ：子供が好きなキャラクターシートを提供 ・昼食：ピカピカ賞を提供 ・褒める：「観察→褒める」の日常化	①集団プログラムを改良 ・スモールステップ目標を設定 ・朝礼でメインの先生から職員へプログラム内容を共有 ②個別プログラム(専門的支援)を拡充 ・個別支援計画に基づき、トイトレトレーニング、ことばトレーニングを提供 ③終礼の定例化 ・ヒヤリハット、プログラム振り返り、児童関連中心に職員から情報を収集、早期に改善を図る

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	チームでの支援 (関係施設との情報交換、療育内容の相互共有)	・昨年12月開所来、教室内での療育内容を固める事を優先 ・関係施設との連携は受け身的な対応に留まっていた	①管理者・児発管の外出頻度を上げる ・発達課題の大きな児童について、幼稚園、保育園、小学校、他の療育施設などと定期的な情報交換を行う ・他の施設における療育内容を参考に、教室での療育内容の改善を図る
2	保護者への支援 (保護者同士の交流、ペアレントトレーニング)	・初回保護者会では教室での取り組み内容、お子様の様子をご確認いただく事を主眼に実施 ・保護者同士の交流は時間、場所の制約もあり限定的だった ・家庭訪問もテスト実施したが、ペアトレの知見不足もあり保護者の満足を得られず、実施を一旦取りやめ	①保護者会兼グループペアトレの開催 ・保護者同士の交流にもつながる、グループでのペアレントトレーニングを企画中 ・ペアレントトレーニングの知見不足は、こぼんはうすさくら本部からの支援を仰ぐ
3	有事への備え (BCP、災害対応)	・昨年12月開所来、平時の対応力向上を優先して対応 ・有事への備えは最低限の内容に留まっていた	①災害備蓄 ・災害発生時の備品を一通り備蓄、定期的に期限切れの物品は無いか？追加で備蓄する物品は無いか？チェックする ②防犯対策 ・送迎後の時間帯では玄関施錠を徹底 ③職員への訓練 ・各種訓練を定期的実施

児童発達支援自己評価表

公表:令和 6年 9月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 八千代台教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	
	2	職員の配置数は適切であるか	6	1	0	休憩時間等、人員が薄くなる時間帯へ職員を追加配置
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2	0	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	0	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	1	8月より日次終礼を定例化改善の早回しを実施
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	3	0	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	1	今後検討
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	0	8月より各種研修を毎月実施 各種資格取得の研修も会社負担で適宜実施
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	0	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	0	今後検討
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	0	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1	1	要望の強いトイレ、ことばの個別プログラムから導入
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	0		

児童発達支援自己評価表

公表:令和 6年 9月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 八千代台教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	1	8月より終礼を定例化 ヒヤリハット、プログラム状況、児童 関連について共有
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2	0	現状、個別支援計画を共有いただいている
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3	0	ことばと発達の相談室を主体に引き続き連携を図る
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	5	0	該当児童ナシ
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	3	1	該当児童ナシ
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	0	発達課題の大きめの児童から密な連携を図る
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	1	八千代特別支援学校との情報共有を引き続き図る 他の小学校との連携も必要に応じて適宜実施
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	1	すくすくルームの見学を適宜実施
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	0	3	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3	1	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	1	1	今後実施を検討
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	

児童発達支援自己評価表

公表:令和 6年 9月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 八千代台教室

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	0		
38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0		
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3	0		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	0	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	0	0	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3	0	アレルギー有無のチェックを朝礼で確認する事を徹底
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	0	虐待防止・身体拘束適正化委員会、研修実施
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1	0	虐待防止・身体拘束適正化委員会、研修実施

(注釈)

- i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。
- ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。
- iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されています。
- iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。